

## 社会で求められる能力とは何か

— 読売新聞・栃木版「時評」 —

開倫塾

塾長 林 明夫

1. おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。
2. 先週の土曜日と日曜日は韓国から英語の先生をお招きして、「第7回全国模擬授業大会・国際大会」を足利市の足利工業大学附属高校をお借りして開倫塾の主催で開かせていただきました。今回は初めての試みとして国際大会と銘打って、韓国の有名な女子高校である昌文女子高校から2人の先生に来ていただき、その先生方に高校2年生と高校3年生の英語による英語の授業をしていただきました。本当に熱心に英語による英語の授業をやっていただきました。会場にいらっしゃった日本人の英語の先生に「わかりましたか」とお聞きしたところ、半分くらいの方が「難しくてわからなかった」ということでした。私は韓国の先生に「今、先生にやっていただいた韓国の英語の授業を、韓国の高校生はよく理解できていますか」とお聞きしましたら、びっくりなさって、「なぜそのようなことを聞くのですか。英語で英語の授業をするのは韓国では当たり前のことで、授業では生徒がわかる英語で授業をします。生徒は全部理解します」とおっしゃっていました。その同じ授業を日本の英語の先生が聞いてわからないという状況ですから、これは由々しき問題です。日本の英語の先生は韓国の高校生に劣るわけですので、まず日本の英語の先生には韓国の高校生の状態までレベルを上げていただき、次に韓国の英語の先生と同じレベルまで頑張るところまでやっていただきたいと思いました。日本と韓国では随分と差があることを感じました。
3. 今日は、5月29日に読売新聞の栃木版に掲載された「時評」に私が書かせていただいた「一生勉強、一生青春」というコラムについて、少し説明させていただきます。800字ぐらいの文章で私が書かせていただいたのは、「これからの社会で求められる能力とは何か」ということです。
4. 現代は知識が基盤になった社会、「知識基盤社会(Knowledge Based Society)」ですので、学校で学習するような知識とインターネットなどで得られる情報、自分のもつ専門的な技術を上手に組み合わせる能力が大事なことの1つだと私は思います。
5. また、現代は「グローバル化社会」ですので、国や民族、言語、習慣、価値観などが自分とは異なる多様な集団で、トラブルに陥ることなく上手くやっていく能力が必要だと思います。つまり、2つ目はグローバル化社会に対応する「多様な集団で交流する能力」が大事だということです。
6. それから、3.11や福島原発問題をはじめ少子高齢化や、日本の国と地方に借金が多いなど現代社会には解決しなければならない課題が山ほどあります。現代は「課題山積社会」といえます。これから先、ギリシャの問題やスペインの問題などヨーロッパ発の経済危機などの色々な経済問題も起こってくるかもしれません。次々と問題が発生し、何が起きてもおかしくない世の中です。雷が鳴ったり竜巻が起こったり、本当に大変な状況です。このように何が起きてもおかしくない世の中で

すから、「高い志」をもち、自分自身を律しながら活動する「自律的に活動する能力」が必要だと思ひます。これが3つ目です。

7. この3つの能力の前提としては、学んだこと、理解したことを自分のものとして身に付ける、定着させる「学習方法」を身に付けることが大事かと思ひます。
8. 学力の高い人に共通しているのは、わからない言葉に出会ったら気持ちが悪いと思ひ、辞書で調べ、その意味をメモし、繰り返し繰り返し読んで、自分で使える語句の数、つまり語彙、ボキャブラリーを増やしていることです。学力はよく身に付けていることばの数に比例します。ことばの数、語彙を増やすことも大事かと思ひます。人とお話をしていると、単語の意味がわからない、語句の意味がわからないということがあります。ですから、色々な人のお話を理解するために、まずは学校の勉強をしているときに教科書でわからない言葉が出てきたら辞書で調べることも大事かと思ひます。また、新聞を読んでわからない言葉が出てきたら辞書で調べることも大事です。
9. 更に、よく理解できた内容は声を出して読む練習、音読練習をする。書くのが難しそうな語句がありましたら、書き取り練習をして自分の身に付けることも大事です。
10. 読書をするると「思慮深さ」が身に付きます。ゆっくりと読書をして自分自身を振り返り、深く物事を考える「思慮深さ」を身に付けることも大事です。
11. 読書により身に付くのは思慮深さです。また、新聞を毎日しっかりと読んで「自分で考える力」、「批判的思考(クリティカル・シンキング)能力」を身に付けることが大切です。今自分の目の前で起きていること、日本や世界など世の中で発生していることは一体どのようなことだろうと自分の力で考え、自分の行動を自分の力で決めることも大事かと思ひます。
12. ただ、もっともっと大事なことは、目的をもって生きること・目的をもって勉強することだと思ひます。受験勉強は大切ですが合格だけを目的にすると、進学したあとに進学先でボーッと過ごしてしまいます。また、就職活動も大切ですが就職だけを目的に勉強すると、就職という目的が達せられればそれでいいということで、何か辛いことがあるとすぐに辞めてしまいます。ですから、何のために進学するのか・何のために就職するのか・もっと言うと、何のために仕事をするのか・何のために生きるのかを新聞や素晴らしい方の伝記を読んだり、古典を参考にしたりして、自分で考える。その力を鍛え抜くことが大事かと思ひます。例えば、野口英世さんの伝記や福沢諭吉さんの伝記、栃木県に非常に馴染みのある田中正造先生の伝記や二宮金次郎先生、二宮尊徳先生の伝記などを読むと本当に素晴らしいと思ひます。
13. あきらめないこと。「一生勉強、一生青春」。「教育ある人とは勉強し続ける人」です。社会に出てからも一生勉強し続ける人が「教育ある人」です。「健康第一。心の健康、身体を健康を大切に」しながら過ごしていただきたい。
14. 以上ような内容を2012年5月29日(火)の読売新聞栃木版「時評」のコーナーで書かせていただきました。月に2・3回東京都内を中心に各地の高等学校や中学校に行つて、このようなお話をしていることも書かせていただきました。ぜひ読売新聞を読んでいただければ有難いなと思ひます。

— 2012年12月19日加筆・訂正 —